空室情報

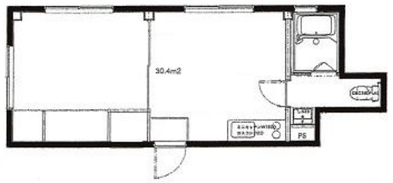
※ お問い合わせは、03-5906-5340 または、info@chc.or.jp まで

今月の「空き住戸出ました！おススメのお部屋」です。

● **コレクティブハウス大泉学園**

1DK　30.4 ㎡ 74,500 円

トイレ・風呂別　エアコン完備
大きな収納　浴室乾燥



このハウスには、
24 時間風呂があります！

コレクティブハウスとは？

NPO コレクティブハウジング社(CHC)が、企画・推進する「多世代でつながる・地域とつながる」
新しい仕組みの賃貸住宅です。

各ハウス 居住者のブログ

実際の暮らしの様子は、コチラ

スガモフラット
http://sugamons.no-blog.jp/
コレクティブハウス聖蹟
http://chcseiseki.blog60.fc2.com/
コレクティブハウス大泉学園
http://blog.livedoor.jp/ch4_oizumi/

事業主募集中！

※ お問い合わせは、03-5906-5340 または、info@chc.or.jp まで

NPO コレクティブハウジング社(CHC)では、事業主を募集しています。
コレクティブハウスは、大家さんの余分な手間やコストを削減し、空室を減らします。
CHC が、居住者の暮らしと大家さんの物件管理の両方の運営支援を行っていきますので、安心して賃貸物件としての事業を継続できます。コレクティブハウスの賃貸事業に興味ある事業主さん、ご連絡お待ちしております！
たくさんの居住希望者が、住みたいまちのエリアを中心に、事業主さん探しの活動を続けています。

居住希望者の活動の様子

http://common-meal.blogspot.jp/

スケジュール

※ お問い合わせは、03-5906-5340 または、info@chc.or.jp まで

● 住みたい方
オリエンテーション

コレクティブハウスに住みたい
暮らしづくりに興味のある方

9 月 11 日(木) 19:00～21:00
9 月 13 日(土) 10:00～12:00
9 月 26 日(金) 19:00～21:00

参加費： 2,000 円
会場： 目白 CHC オフィス

● コレクティブハウジング
入門

コレクティブハウジングのことを
お知りになりたい方

9 月　8 日(月) 13:30～15:00
9 月 25 日(木) 19:00～20:30

参加費： 3,000 円
会場： 目白 CHC オフィス

●コレクティブハウス
見学会

実際のハウスを見てみたい方

コレクティブハウス聖蹟
9 月 27 日(土) 13:00～15:00
コレクティブハウス大泉学園
9 月 28 日(日) 13:30～15:30

参加費： 2,000 円
会場： 各ハウス

お知らせ

● Facebook
CHC の facebook ページ「コレクティブハウジングで行こう！」を
ホームページのトップページからご覧頂けるようになりました。
ぜひ「いいね！」ボタンへのクリックをお願い致します。
http://www.chc.or.jp/

● 目白オフィス　オープンデイ
目白オフィス、会員の皆さまにお気軽にお越し頂けるよう、
毎週木曜日午後をオフィス オープンデイとしています。
事務局メンバーがおりますので、お話をしながら、関連書籍や資料などもご覧いただけます。
お近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。
※　都合によりメンバーが不在の場合もありますので、お越しの際には、事前に事務局までご一報ください。
TEL: 03-5906-5340 / MAIL: info@chc.or.jp

目白 CHC オフィスへのアクセス

〒171-0031
東京都豊島区目白 3-4-5 アビタメジロ 302
03-5906-5340

人材募集！　あなたのやる気、専門知識を活かしませんか？
NPO コレクティブハウジング社では、活動に協力してくれる人材を募集しています。info@chc.or.jp まで

コレクティブなつながりを創造する　　2014 年 9 月 10 日 第 4 号

ほぼ月刊 CHC

これこれ新聞

NPO コレクティブハウジング社（CHC）オンライン
http://www.chc.or.jp/
お問い合わせは、03 – 5906 – 5340 または、info@chc.or.jp まで

月刊これこれ新聞
定価 200 円（税込）
定期購読 1,980 円（年間/送料別）

CHC 最新活動ニュース　　*11.8(金) 東京ウィメンズプラザ フォーラム*

フォーラム企画・運営参加者　大募集！

今月のトピック

東京ウィメンズプラザ フォーラム参加が決定！
一緒に企画・運営に携わってくれる方を募集しています。

「たまプラーザ」まち歩き
コレクティブハウスができるかも知れないということで、早速まち歩きを行いました。現地からのリポートです。

オープンデイカフェ開催
毎週木曜日は、CHC オフィスオープンデイ。今回は特別にオープンデイカフェとして、上映会＆座談会を開催しました。

講演と映画のつどい開催
中央区女性ネットワーク・中央区主催で開催されたセミナーにおいて、大変ご好評いただいた CHC 宮前の講演内容を一挙公開。

居住者便り
各ハウスの様子や、暮らしぶりなどを、居住者からのメッセージやブログなどの文章でご紹介する新コーナーです。

お知らせ
近日開催の各講座、オリエンテーションのスケジュール、コレクティブハウスの空き住戸、情報満載！

東京都の施設である東京ウィメンズプラザでは、毎年、様々な活動団体がパネル展示やセミナー、ワークショップなどを２日間にわたり行う、東京ウィメンズプラザフォーラムというイベントが開催されます。

このフォーラムは、参加希望団体が企画提案し、それが認められると東京都から会場費が全額補助され、広報もしていただけます。今回、気軽に応募したのですが、参加団体に選んでいただくことができました。

先日、フォーラムの説明会があり、様々な活動団体の方々と顔を合わせました。昨年まではこのような参加団体の交流はやっていなかったそうで、ウィメンズプラザ自体の広報を効果的にどう行うかを考えるためにも、人集めは参加団体が知恵を絞ってやることが重要のようでこのような交流会が企画されたようです。本当に多様な活動の方々がいらっしゃるので、広報するところから協力できたら面白そうな気がしました。

開催日時は 11／7（金）の夜です。おおよその枠組みを決めねばならないため、講座＆ワークショップ「一人暮らしも核家族も、多世代で暮らし心豊かに生きる住まい」というテーマで企画を通しましたが、詳細はこれから検討しようと思っています。会員の皆さん、居住希望者の皆さんに企画・運営に加わっていただき、コレクティブハウジングを知っていただく良い機会にしたいと思っています。

（担当：狩野三枝）

東京ウィメンズプラザは、豊かで平和な男女平等社会の実現に向けて、都民と行政が協力して取り組む具体的、実践的な活動の拠点です。

表参道駅 B2 出口より徒歩 7 分。青山通り（国連 246 号線）を歩き、国連大学手前を右に曲がり 50m ほど進むと、奥まったところにあります。

発行　NPO コレクティブハウジング社（CHC）　〒171-0031 東京都豊島区目白 3-4-5 アビタメジロ 302
TEL: 03-5906-5340 / FAX: 03-5906-5341
E-mail: info@chc.or.jp

横浜田園都市線　「たまプラーザ」まち歩き　― ご報告 ―

先日、たまプラーザでコレクティブハウスができるかもしれないということで、どんな街なのか早速まちあるきに行ってきました。

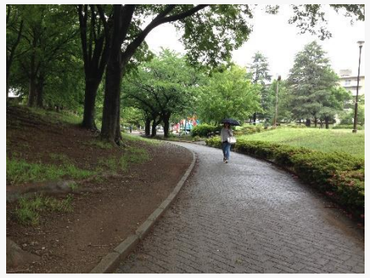
たまプラーザは、電車で渋谷から東急田園都市線の急行で５つ目、時間にすると 20 分ほどで着き、渋谷や青山、表参道への通勤や買い物にはとても便利な場所です。

まず駅に着くと、駅構内が駅前ショッピングセンターと合体し、駅から雨に濡れずに買い物ができます。駅前は桜並木があり、駅からすぐに大型スーパーが複数あり、夜遅くなっても　安買い物は安心といった感じです。

少し駅から離れると、お洒落なカフェやパン屋、そして駐車場を完備したドラックストアやゴルフ用品店といった、都心よりも少し郊外の練馬区の大泉学園町や世田谷区の成城あたりに似た雰囲気でした。

ただこのあたりはとても坂が多く、歩いたところで平坦な道はほとんどありませんでした。そのためか駅からバスがたくさん出ていて、近距離でもバス利用をするニーズが多くあるように感じました。ちなみに駅のバスターミナルは駅下にあり、こちらも雨に濡れずにバスに乗れるようになっていました。ただ、アップダウンが多い代わりに高台に立つと眺望が開け、富士山や丹沢の山々が見られるようです。

また、ここは東急が街づくりに力を入れていた場所のようで、学校、公園、病院といった住環境として必要なものは、一通り揃っていました。



さらにたまプラーザは、最近大井町線への直通電車も増えたことで、目黒、品川、大井町といった都心より南側へのアクセス、また隣の駅のあざみ野から地下鉄が出ており、新横浜、横浜、日吉にも便利な場所です。

実際に歩いた感想ですが、私は都心よりも西側に勤務しているので、通勤に便利で都心に比べ緑が多く、今後住んでみたい街だと思いました。

＜CHC より＞
O さん、まち歩きレポートありがとうございます！
現在、たまプラーザで２つ目の案件を検討中です。駅から徒歩でも 10 分ちょっとの場所です。
ご興味のある方は、宮前・狩野までお問い合わせください。

(03) 5906 – 5340　info@chc.or.jp

✉ 居住者便り

～ 大田楽へのお誘い ～
コレクティブハウス元総社コモンズ居住者 T さんより

皆さま、こんにちは。

月曜の夜に、ゆでたとうもろこしとベビーコーンをいただきました。S さんと H さんが収穫してくださったとのこと、ありがとうございます。

ベビーコーンは、別に作っておいた野菜のトマト煮に加え、とうもろこしはそのままかぶりついたり、トマトスープに加えてみました。すっきりとした甘さでとてもおいしかったです。枝豆は、ほかほかごはんに塩昆布と一緒に混ぜて即席豆ごはんにしてみました。こちらも甘みがあって、歯ごたえもよく、とてもおいしかったです。

///

さて、大田楽の方が本番公演が続くハイシーズンとなり、特に８月は、海外公演で数日不在となったり、地元公演の万灯会を抱えてしまっているので、忙殺されています。

おかげさまで様々な場所で大田楽を公演する機会が増えてきているのですが、過酷な舞台裏事情から仕事や学業などとの両立が難しく、担い手は年々減ってきており、高崎を拠点とするチームも存続の危機的な状況です。100 年先の未来に続いていくものに、何かしら関われたら良いなあという、私自身の小さな願いがありまして、その可能性の一つとして大田楽に参加しているのですが、内心ハラハラしながらできるところをつないでいます。どんなことでも続けていくということはとても大変で、続いているということはすごいことなんだなあとしみじみ感じています。

８月には、カナダはプリンスエドワード島での公演も行いました。その他、私自身が関わる主だった公演日程をご参考にお伝えします。

公演日程

９月 21 日(日)　埼玉入間大田楽公演
10 月４日(土)　高崎音楽祭大田楽公演
10 月 18 日(土) 足利樺崎寺大田楽公演
（鎌倉時代の足利氏ゆかりの浄土庭園跡が
発掘されたとかで、その記念の公演のようです）
11 月３日(月)　新潟若栃大田楽公演　など。

連載コラム　― 育児日誌 in コレクティブハウス ―　その２ 前半

コレクティブハウス居住者、O 橋さん（40 代男性）のコレクティブハウスでの子育てと暮らしの様子をお伝えするコラムです。O 橋さんの奮闘する育児の様子を楽しみながら、見守って頂けますと幸いです。

我が家の暮らす、コレクティブハウスには、単身者・ファミリーなど十八世帯が暮らしていますが、その中に子どもたちもたくさんいます。小学生が３人、２歳の男の子、私の１歳の娘、咲菜（さきな）、同い年の男の子、咲菜より２ヶ月後に生まれた男の子、そして、この春生まれた女の子。世間で言う「少子化」は、どこ吹く風の我がハウスです。決して「産めや増やせや」と、スローガンを掲げているわけではありません（笑）が、私が感じている「少子化」しない理由は、いくつかあります。

- 子育て奮闘中の家族が身近にいること。　→　何となく、自分もやってみようと思える気がします。
- 他の人がたくさんいること。　→　親子とは言え、親と子どもとだけで過ごしていたら、煮詰まりそうです。
- 多世代のコミュニティだから。 → 子育て中の先輩や子育てを終えた大先輩の方がいて、安心感があります。
- そして、この不況時代にはあたりまえの「共働き」であっても、その暮らしを支える仕組みがあるから。

などだと思います。その仕組みの一つとして、コモンミールと呼ばれる食事があります。主に夕食として開催され、持ち回りで食事の準備をします。ひと月に、十五～二十日程度開催され、そのうちの何回かを開催側としてがんばって食事の準備をすれば、他の日は、夕食が用意されているということになります。このような家事の一部を日常的に共有化することで、お互いの暮らしに、自然と支え合いを育んでいます。

日本でのコレクティブハウス、住まい手が暮らしを創る住まい　では、日本でのコレクティブハウスをご紹介したいと思います。活動グループ ALCC が事業に取り組むことになり、NPO コレクティブハウジング社をつくりました。わたしは ALCC に参加し、更に自分は独立し、NPO の事業責任者になりました。2000 年から私たちの NPO はスタートしました。

【NPO コレクティブハウジング社の沿革と、コレクティブハウスについて説明】

このように、コレクティブハウスとは住まい手が、今かかえている暮らしの課題を考えながら暮らしを創る住まいです。タウンコレクティブは、皆さんが住む地域でも多発する「空き家をつかって、どう人とのつながりを作って暮らしつづけていけるか？」ということを、コレクティブハウスの考え方を地域に広げることで解決できないかという 1 つの試みです。

どんな暮らしをしたいのか　前半で長々と私たちがどういう時代の中で、住まいを考えてきたのかを思い出していただこうとしました。私たちは、ひたすら経済発展や開発を優先する動きのなかで持家政策といわれて、政策としての住宅づくり、資産形成と言われ、財産として住まいを取得してきたのではないでしょうか。双六ですが、上がりだったはずのその郊外庭付き一戸建てで、私たちは今「一人暮らしになる」、「買い物難民になる、」「孤立死する」、あるいは「空き家になる」そういう時代を迎えています。私たちは、『どのように生きて、そして死んでいきたいのか』、『私たちはどんな暮らしが安心で快適なのか』、ようやく、いまさら考え始めているようにも思います。69 年経って、ようやくわたしの快適な暮らし、住まいについて考えるスタートラインについたということかもしれません。『本当に庭付き一戸建てマイホームは、あなたの暮らしに必要ですか？』と、双六の作者が警鐘を鳴らしていたのは、住まいが、生き方や暮らし方でなく「物」の取得の追求だったからだと思います。

当事者としての私たちの一歩から　私たちに出来ることはなんでしょうか。様々な不安の中にある私たちの暮らしですが、大切なのは身近な自分たちの暮らしから考えるということだと思います。誰かに期待するのでなく、平均的に考えるのでなく、私の問題として、当事者として、私とあなたの日常の暮らしの些細な問題に取り組むことからはじまるのだと思います。

私たちが変えたいと思えば変えられると、自分の意識を変えることだと思います。そして、多様性の中で生きることを大事にすること。そのことは、ひいては自分もありのままでいられる、受け止めてもらえることでもあるのだと思います。

お金では買えない安心、誰かの役に立ったり、話ができる幸せ、そういう些細な日常こそが、個々の人の尊厳を大切にし、多様性を価値とするという事につながっています。コレクティブハウスのくらしの提案から、このような可能性は当事者としての私たちの手の中にあると感じてくださったら、嬉しいです。

みなさんが当事者として何かをやってみることが、重要なのです。

● 参加された方からの感想

大変興味を持って聞きました。自分の今後を考えていきたいと思います。

行政と一緒に、コレクティブハウスを実現させたい。

高齢になっても誰かと思いを共有しながら日々過ごすことが幸せなことだと思う。

自宅にも空き部屋があります。タウンコレクティブの話に興味を持った。

（高齢者にとって）ケア付き住宅も必要だが、住人が主体となる家があるといいと思いました。

個を尊重し寄り添うことは、日本に根付いていないが、いい生き方だ。

コレクティブハウスという言葉、初めて聞きました。

自分は、他人と一緒に暮らすのは、苦に思います。

とても良い話でしたが、その暮らしの中に老人も含まれるのでしょうか。

先見の目を持った素晴らしい講演をありがとうございました。

大変よかった。
もっと具体的な
メリット・デメリットを
聞いてみたい。

他人と住むのは、若者向けであり、高齢者には向かないのではないか。

仲間づくりが一番大切ですね。そこが難しそう。

最後まで、元気で自分らしく生きたいと思いました。長生きするだけが幸せでないと、考えされられました。

（自分の老後について）もっと自由な考えでいきていけると良いと思いました。

第１回「オープンデイカフェ」開催しました！　― ご報告 ―

去る 7/17（木）の夜、初めてのオープンデイカフェを開催しました。

第一弾は、
「アジアから見た日本とコレクティブハウスとは？」
～<ベトナム編>上映会＆座談会～

日本・ベトナム国交回復 40 周年を記念し、日本の文化を広くベトナムに伝えることを目的に制作された、日本電波ニュース社とベトナム国営テレビ局ハノイテレビによる共同制作番組で、コレクティブハウス聖蹟が多世代の暮らしをテーマに取材を受けました。３月にベトナムで放映され、とても好評だったとのことで、今回は、日本の担当者である日本電波ニュース社の高田沙織さんをお迎えして、現地の反響や、取材スタッフの目から見たコレクティブハウスの印象などを聞かせていただきながら、さまざまお話に花を咲かせましょうという企画でした。

当日は、３人の会員の方がご参加くださって、まずは高田さんから番組の概要についてご説明をいただいた後、早速、番組を鑑賞。観終わった後は、文字通り話に花が咲きました。

ベトナムのサンドイッチ“バインミー”をつまみながら、日本の他の取材先の話や、ベトナムの視聴者の感想などをお聴きして、そこからはベトナムの人口構成やお国柄の話、アジアのものづくりのことなど（日本の着物は今、かなりベトナムで縫われているって知ってました？）、どんどん話は繋がりました。

それからもちろん、コレクティブハウスの話。コレクティブハウスの魅力や、繋がりを感じられない東京の現状について、シェアハウスとの違いに関しては「大家さん目線ではどう違う？」なんて話も飛び出しました。そして、「コレクティブハウスってまだまだ知られていないよね。こういう暮らしを求めている人に、どうやって知ってもらおう？」ということについて、じっくり話しました。楽しいアイデアを頂いて、そこから話が膨らんだりもしましたよ。

気がつけば、あっという間に２時間半。ベトナムの人たちの感想だけでなく、高田さんからも鋭いご意見をいただいて、改めて自分たちの求めているコレクティブハウスの暮らしが価値あるものと再認識する機会にもなりましたし、また、少ない人数でフランクに真剣に、さまざまなことについて“おしゃべり”できて、とても充実した時間でした。ご参加くださった会員のみなさんからも、「こうやっておしゃべりするのいいですね」という感想をいただいて、今後への可能性を大いに感じながら、第一回、楽しく終了しました。

不定期開催にはなりますが、第二回開催に向けて企画を練るところから
また動き始めます。「こんなことやってみたい」という会員の皆さんの企画持ち込み大歓迎です。
ぜひ一緒に、楽しい会員の情報交換、意見交換の場をつくっていきましょう。

コレクティブハウス聖蹟での番組撮影時の様子。

報告 講演と映画のつどい　－みんなで一緒に暮らしたら－

2014年７月５日 中央区女性ネットワーク・中央区 主催

7月５日に宮前共同代表理事が、「講演と映画のつどい」で講演を行いました。その内容を掲載します。

みなさま、こんにちは。コレクティブハウスの提案をしております、コレクティブハウジング社の宮前眞理子です。

今日は私も見たかった　映画「みんなで一緒に暮らしたら」をこの後でみることになっておりますね。私も、是非見たいとおもって、今日のお話をお引き受けしてしまいました。映画の内容と私の話しがどうつながるか、つながらないかは見てのお楽しみということで、とても心配ですが、前段で私たちの住まいの現状とコレクティブハウスという住まい方についてお話させていただこうと思います。

世界中で受け入れられているコレクティブハウス　最初に、「どうしてこのような提案をはじめたのか。」「何故必要とおもっているのか」というご質問があり、私がコレクティブハウスに出会った経緯もふくめ、すこしお話いたします。コレクティブハウスは世界ではスウェーデンやデンマークなど北欧の国ではじまり、オランダ、ドイツなどにもあります。だれでも望めば、選択できる住まいの一つです。その他ではデンマークのスタイルが普及しているのが、アメリカ、カナダ合計で百数十のプロジェクトがあります。アジアでは私たちが作った日本のコレクティブハウスが５つあるだけで、他の国にはありません。しかし、韓国や、インドで研究がはじまっているという話も聞きます。その他、オーストラリアとニュージーランドに３つぐらいハウスがあるようです。こういう分布をお話しすると、コレクティブハウスがどこかの国の特殊な珍しい暮らし方でなく、世界の中でも受け入れられているものである事がおわかりいただけると思います。

日本でのはじまり　日本での発端には、戦後職業婦人として結婚しないで生きる方がでてきて、日本には女性が一人でも快適に暮らせる住まいがない、ということがありました。それまで女性は結婚するのが当然と考えられていたわけですから。そういう女性の住まいを考えようということで、女性の自立や解放の問題としての視点があったのです。そのために世界の住まい調査をする中で、スウェーデンのコレクティブハウスがもっとも良いのではということで、日本にもこの住まいと暮らし方を広めようという研究会が1990年に初めて調査報告書を出版して紹介しました。（アーバンコレクティブハウジングのすすめ）

その後、この住まいは一人暮らしの女性だけでなく、子育てにも高齢者にもいいということで、是非、多様な人の住まいとして、普及しようという活動グループができました。（1993～1999年に活動したALCCというグループです）

個人の尊厳の尊重、あらゆる違いを乗り越える暮らし　先日都議会で女性議員に向けたヤジがありました。外国から日本が非常に女性の人権擁護におくれている、という指摘がたくさんよせられ、ほんとに情けないなと思ったのですが、日本の女性のおかれた位置は第２次世界大戦までは、ほぼ権利として人権がないという状態であったと言って良いと思います。1945年の敗戦後の新憲法によって、女性は初めて参政権、婚姻の自由、教育を受ける権利、職業選択の自由などを得たわけですが、まだたった69年前のことです。そのことを忘れてはいけないと思います。こうした権利がずっとあったように思っている若い方も多いのですが、まだ最近、得たものなのです。婚姻や家族の形、住まいのかたち、暮らしとは何か、そういうもの全てが、1945年を期に変わったのですが、意識はそんなに簡単に変わらないということがヤジにもあらわれています。今では女性はすごく大きいカオをしているとか言われたりしていますが、深層はそんなに簡単に変化しない、男性だけでなく、私達自身の意識の深層をも問うものだと思います。もっと自分の尊厳、人の尊厳について認識しないといけないということで、そういう認識をきちんと持つことが生き方にも大きく影響します。コレクティブハウスでは個人の尊厳や人権の尊重は、この暮らしの基本的な理念となっています。男女の差も、貧富の差も、地位や階級や人種も国籍も乗り越える暮らしなのです。

日本の住まいの変遷　日本の私たちの住まいについて少し大股に振り返ってみたいと思います。皆様も　ご自分の育った住まいや一人のときや結婚して住んだ家や子育てしていたときの住まいなど、一緒に、思い出していただければと思います。

1945年。戦後焼け野原にともかく家を建てなければなりませんでした。私の母は17歳で終戦を迎えましたが、空襲で住んでいた新大久保で焼けだされました。何もかも焼け、高台からは国会議事堂が見えたそうです。そして、新しい国へ経済成長をしていくことを目指し、農業などの１次産業でなく、２次産業、３次産業へと向かい、そういう成長を担う労働力が大量に都市に流れ込み、ますますそういう人々の住まいが必要になりました。1955年（昭和30年）住宅公団が設立されています。そして、経済成長を支える家族の形として核家族が形成され、「企業戦士と専業主婦のカップルが子育てをする住まい＝公団アパート」が、夢の暮らしになった1960年代がきます。所得倍増計画というものも発表され、そして、東京オリンピックもありました。「オリンピックをカラーテレビで見る賃貸マンション暮らしの核家族」というのがその頃の家族の目指す姿でもありました。

さらなる経済成長をすすめる中、次第に持家政策という誘導で、分譲マンションや郊外の庭付き一戸建てを、皆が目指すという1970年代（昭和45年）がきます。夢のマイホームという言葉もありましたね。この年、大阪万博もありました。

住宅双六と貧しき日本の住まい　皆さんは、このころだれと、どんな家、どんな地域にすんでいたでしょうか？　資料として1973年（昭和48年）のお正月の朝日新聞（１月４日）に載った住宅双六をお配りしました。上田篤さんという建築学者が作成したものです。これを少し説明しますと、『最初は田舎の大家族の家で生まれ、東京に勉学や、就職で出てきて、寮や木賃アパートに住む。その後、結婚を機にもう少し広い賃貸アパートに住み、子供が出来ると夢の公団アパートに申し込み当選！子供が育つにつれ、マンションブームにのり賃貸マンションから、分譲マンションを所有、さらに分譲土地、そして、ついに夢の郊外庭付き一戸建てを取得！という「上がり」を目指す』という双六です。

この時代の住まいは資産形成といわれ、持家政策という経済政策の誘導で、皆が右肩上がりで双六の「上がり」を目指す。これを作った上田さんは、この図を批判として提起しています。本当にみんながみんな、郊外庭付き一戸建てが必要でしょうか？と。この図とともに掲載された文章は「貧しき日本の住まい」というタイトルでした。

開発の時代到来　私が大学をでたのは1975年ころ（昭和50年頃）でした。都市計画、都市開発、社会開発というような開発しようというよう発想が大きなテーマになっている時代（列島改造論はこの時期に田中角栄がうち上げた政策です。）、世の中は空前の開発ブーム、地価は高騰。土地成金なんていう言葉覚えていますか。際限なく地価が上がりつづけ、際限なくお金が回り、拡大成長し儲かるというような気分が充満していました。永久に上がり、回る、そんなあり得ないことをあるように皆が思う。これがバブルなのですが、そういう気分の中、古いものや、自然はドンドン破壊され、大型の店舗や東京の企業が地方にも進出し、土地を買いあさり、昔ながらの町並みや地域コミュニティ、商店街や地場の産業、緑豊かな風景などが消えていっていました。

そんな中で、私はまちづくりや再開発事業、建築設計をする、大学の恩師の事務所に勤めました。結婚、共働き、子育ても直ぐにはじまり、保育園に入れるかどうかは大問題でした。あれから35年もたつのに今もこの問題が変わっていないことに、この国のいびつな発展も映し出されています。「青山通りのあたりは１坪三千万で、サラリーマンが一生かかっても１坪かえない」なんていう話もありました。

さて、日本中で再開発事業が計画され、新幹線や高速道路ができる。これが発展だと皆が思っていたときに、私の師はそうでない提案をし続けていました。駅前に六本木がきて欲しいという市長に、「駅前が田んぼでなにがわるい？この町の宝でしょう。」「地域にふさわしい、この場所の記憶をつなぐまちづくり」などなど、事務所には、そういうわけでバブル期に大きな仕事はあまり来ませんでしたが、こういう師のもとにいたことで私がコレクティブに取り組む資質も養われたと思います。

バブル崩壊、人と人をつなぐ仕組みづくりを模索　1980年代（昭和55年）にはいり、バブルが膨らむだけ膨らみ、様々な軋轢や格差がではじめ、1985年ごろ（昭和60年）から、バブルが崩壊しはじめました。ようやくイメージの資産はイメージにすぎなかった、ということがあらわになりはじめました。街の崩壊は一気に世界恐慌のようにくるものでなく、徐々に衰退していくのです。経営が悪化した大手のスーパーや企業が、地方都市から次々撤退、再開発してできた駅前には、空きビルやだれもいない駐車場がまるで、ゴーストタウンのように残される。それを見て、私がやっていることも、これは街づくりや再開発でなく、街壊し、地域壊しになったのだと、あらためて思いました。そして、その土地で日々を生き、暮らしを営み、次世代につなぐ人が、活き活きと生き続けないかぎり、街も暮らしも続かないと身にしみて感じました。このことが、コレクティブハウジングのような当事者がかかわって創り、人と人をつなぐそういう仕組みづくりを支援したい、という原点となり、方法の模索をはじめました。1993年（平成４年）になっていました。

コレクティブハウスとの出会い　1995年（平成６年）コレクティブハウスを紹介する活動グループALCCのセミナーに、友人が誘ってくれました。そこで、初めてスウェーデンのコレクティブハウスを知りました。これは私がまさに探していたものでした。住む人が他の人と緩やかにつながりつつ、暮らしの場と仕組みを作り、血縁によらず、助け合え、自分らしい暮らしを創りだすこと、そういうことをもうやっている人たちがいたのです。その当時予測されていた、日本の将来像は少子化、高齢化、シングル化し、家族の崩壊やネットワークが切れて孤立化する暮らし、このような日本の暮らしにとって、コレクティブハウスが必ず必要になると思いました。「唯一の希望の星になる」というくらいの思いで、これからの私たちの住まいの選択肢の１つとしたいと考え、提案する活動をはじめました。今から18年前のことです。私のターニングポイントでした。